

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## 首浮き輪による溺水 (No.32 首浮き輪による溺水の類似事例3)

事 例	年齢：6 か月      性別：男児      体重：7.55kg      身長：65.5 cm	
傷害の種類	溺水	
原因対象物	首浮き輪	
臨床診断名	低酸素性虚血性脳症の疑い	
医 療 費	2,079,330 円	
発 生 状 況	発生年月日・時刻	2014年7月3日      午後9時10分
	発生時の詳しい様子 と経緯	<p>母は、いつもお風呂は別に入っているため、母の見守りの元、児だけを入浴させていた。自宅浴槽内で、首浮き輪を頸部に装着して入浴していた。湯の深さは、児の足がつかない深さであった。母がリビングに洗濯物をとりに、約1分間ほど目を離して浴室に戻ると、児の首から首浮き輪が外れて、児がうつ伏せで浴槽の底に沈んでいた。急いで母が抱き上げると、腕がだらりとしていて呼吸が停止しており、顔色のチアノーゼがみられた。母がすぐに胸骨圧迫を開始し、救急車を要請した。約3分ほど胸骨圧迫したところで啼泣、自発呼吸が出現した。覚知より10分後に救急隊が到着し、それから約20分後に、当院へ救急搬送された。</p> <p>児が1か月の頃より首浮き輪を使用しており、今までひやりとするような事象は経験していない。最近では児も大きくなってきたので、首浮き輪の空気をいっぱいにしてしていると圧迫感があって首が苦しいだろうと思い、首浮き輪の空気を抜き気味にして使用していた。</p> <p>首浮き輪は、ベビー用品売り場で購入した。母親は、周囲の人たちも首浮き輪を使用しており、お風呂で使うものだと思っていた。今回、スイミング用であると聞いて驚いたと話した。首浮き輪の事故の報道(2012年7月)についても知らなかった。生後1か月から使用できると聞いており、児もお湯につかれたらよいと思って1か月健診の直後より毎日使用していた。児の足がつく深さで使用と説明書にはあるが、児の足のつかない深さで使用していた。</p>
治療経過と予後	<p>来院時、気道は開通していた。自発呼吸はあるものの不整で、呼吸数は40回/分、SpO<sub>2</sub> 98% (酸素リザーバーマスク：8L)、聴診上、両側肺野に分泌物音が聴取された。脈拍数は200/分、収縮期血圧は100 mmHg、CRTは1秒、末梢冷感や網状チアノーゼはなかった。意識レベルはGCS：E1V4M4と意識障害を認めたが、瞳孔不同は認めず、対光反射に異常はなかった。体温は35.8℃(肛門)で、明らかな外傷痕は認めなかった。血液検査では、pH 7.223、pCO<sub>2</sub> 34.0 mmHg、HCO<sub>3</sub> 13.5 mmol/l、Lac 7.5 mg/dl、BE -13.0、Glu 161 mg/dl、WBC 20,710/μl、Plt 34.8万/μl、AST 70 IU/l、ALT 41 IU/l、CPK 162 IU/l、BUN 6.8mg/dl、Cre 0.19mg/dl、CRP &lt; 0.2 mg/dlであった。胸部単純レントゲン検査では、両側肺野に透過性の低下を認め、頭部単純CT検査では明らかな出血や骨折はなく、その他明らかな異常は認めなかった。</p> <p>意識障害・呼吸不全を認め、気管挿管・人工呼吸管理、低体温療法を含めた集中治療管理を行った。入院4日目の頭部単純CT検査でも著変なく、入院5日目に抜管した。意識状態、呼吸状態、循環状態は安定して経過し、入院8日目に明らかな後遺症なく退院となった。</p>	

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## 首浮き輪による溺水 (No.32 首浮き輪による溺水の類似事例4)

事例	年齢：7か月 性別：女児 体重：7.9 kg
傷害の種類	溺水
原因対象物	首浮き輪 (2016年11月末にフリーマーケットアプリで購入した)
臨床診断名	溺水 (淡水)
医療費	138,690円 (入院費を含む)
発生状況	発生年月日・時刻 2016年 12月 21日 午後 6時頃
	発生時の詳しい様子と経緯 <p>児は双胎の第1子である。双胎第2子 (妹)、2歳の兄と母と本児の4人で入浴していた。本児と2歳の兄が浴槽内にいた。浴槽内の水深は、誰も入浴していない状態で30cm程度であったことは母が確認していた。発生時、浴室のドアを開放した状態で、母と妹は脱衣所にいた。母は、浴槽に背を向けていたが、振り返れば浴槽が見える位置にいた。父は仕事で不在であった。はじめに、母が本児と妹それぞれに首浮き輪 (初めて使用) を装着し、浴槽内に両児を入れたまま、浴室内で浴槽が視野に入る姿勢で兄の体を洗った。その後兄を浴槽内に移し、妹の体を浴室で洗った後に脱衣所に連れて出た。浴槽内には兄と首浮き輪を装着した本児が残っていた。浴室から脱衣所に繋がるドアは開放されていたが、母は脱衣所で浴槽に背を向けた状態で妹の体を拭き、クリームを塗布し、オムツを履かせようとしていた。浴槽内の兄が給湯機器用浴室リモコンのボタンを押している音を母が聞き、兄を注意しようとして母が浴室の方を振り返ると、兄に装着していたはずの首浮き輪が外れ、兄はうつ伏せ状態で頭部は完全に水面下に浸かり、臀部が水面上に浮いていた。母が本児を抱き上げた際、本児は自発呼吸を認め、四肢を動かしてはいたが、閉眼してぐったりしており顔面蒼白であった。午後6時15分に、母が救急要請し医療機関を受診した。</p>
治療経過と予後	<p>救急車内でのバイタルサインは、心拍数 142 回/分、呼吸数 36 回/分、大気下で SpO<sub>2</sub> 97%、腋窩温 36.6 度であった。病院搬入時、啼泣しており心拍数 170 回/分と頻脈を認めた以外、バイタルサインに異常は認めなかった。児は意識清明で呼吸・循環状態は安定していた。病歴や身体所見から虐待の可能性は低いと判断した。胸部 X 線検査で異常なく、静脈ガス所見は正常範囲であった。児の出生歴・発達・発育に異常なく、突然死・けいれん・心疾患・不整脈などの家族歴は認めなかった。脳波や心電図は実施しなかった。経過観察目的で同日入院となり、翌朝まで呼吸状態の悪化がないことを確認し退院となった。退院前に傷害予防教育を実施した。</p> <p>両親に確認したところ、本児に正しく首浮き輪が装着されていたかどうかは不明であり、浮き輪には十分な空気が入っていたかどうかは不明とのことであった。</p>